

視聴覚教育

NO 107

発行日 59.11.1
発行 岡崎市AVL
編集
広報委員会

全国自作視聴覚教材コンクール

優秀賞 受賞

『公害を考える』

日本視聴覚教育協会・日本視聴覚教育連盟などの主催する、昭和五十九年度、全国自作視聴覚教材コンクールにおいて、現職教育社会科部と視聴覚ライブラリー自作委員会が協力して製作した自作ビデオ教材「公害を考える」——国道一号線——が見事、優秀賞に選ばれた。表彰式は十一月二十一日、東京・武蔵野市で開催される学校視聴覚教育全国大会の会場で行われる。

この作品は、中学校三年・社会科 単元「住民の政治参加」の導入段階などでの活用を意図して作られたものである。製作を担当したのは、杉浦修（茨中）、萩原寛（六ツ美中部小）、白井正壯（本宿小）、中根俊忠（岩津中）、内藤法雄（矢作南小）、小池剛（矢作北小）の各先生方である。

こうした優れた作品の本当の価値は、各学校での授業の中で生かされてこそ、証明されるものである。ライブラリーでは、マスターテープを保管しているので、ダビングして、是非、授業の中で生かしていた、だくことを願っている。

本年度も、社会科部の先生、視聴覚部自作委員会の先生方によって次の自作視聴覚教材の製作が進められている。

- ・小2 社会科「発車オーライ」（ビデオ）
- ・小3 社会科「イチゴ作りの農家をたずねて」（ビデオ）
- ・小5 社会科 伝統産業「仏壇」（ビデオ）
- ・小6 社会科「徳川家康」（ビデオ）
- ・中3 社会科「中小企業は今」——岡崎のニット——（ビデオ）
- ・社会教育 三河仏壇「宮殿師」（8ミリ映画）

ニューメディア用語

CAPTAIN（文字図形情報ネットワークシステム）

電話回線で家庭や企業の実像機と情報センター、または外部のコンピュータとをつなぎ、そこに蓄積されている情報を利用者の求めに応じ、会話形式でブラウン管上に文字・図形などの画像情報を提供するシステム。世界共通の呼称は、ビデオテキストといわれ、昭和六十年以後に全国へ拡張される予定である。

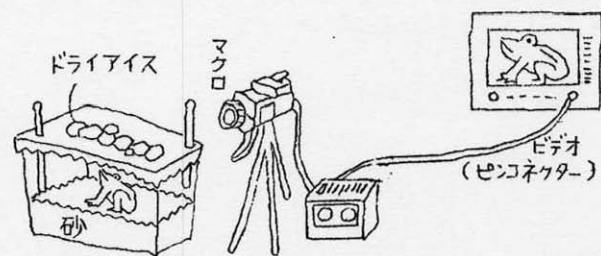
ホームビデオの利用

資料提示機として

葵 中 杉浦 修

このごろのホームビデオの普及はめざましく、多くの人が持つようになってきた。これを、番組の録画・再生だけでなく、資料提示機用に利用してみた。授業は、中一理第二分野「環境温度と動物の体温」の観察である。図のようにセットし、ドライアイスで冷やしてみた。

理科の授業では、教材の準備でその半分が決まると言われる。この装置を持ちこんだ時の生徒は、期待感で一杯であった。また、教師実験では、小さくて見にくい資料を大きく見ることができ、大変効果的であった。また、手軽に使用できない点はあるが、将来はコンパクトにセットされ持ち運びのできる教材提示機が出てくるであらう。その他、このホームビデオを体育大会の決勝審判用に利用している。



カエルは、土の中にもぐり動かなくなった。(冬眠)

ライブラリーだより

自作TP 85点 応募

今年度の岡崎市自作TP作品募集は、小学校56点、中学校29点と多くの応募がありました。現在審査中ですが、入選通知?を御期待ください。

16ミリ映画

「叱ることを考える」の利用を!

全視連の普及事業として、今年度購入の16ミリフィルム「叱ることを考える」カラ-28分は、家庭教育用にぴったりです。子どもが叱られた時、自分から反省して態度をかえていくようにするにはどうしたらよいか。対応の仕方、話し合いの素材を提供してきます。

岡崎の視聴覚教育の高揚を

県教研参加の先生

★ 桑木 富士子 先生 (大樹寺小)

「視聴覚教育の実践—小学校社会科」

★ 小川 規博 先生 (六北小)

「校内放送活動の実践」